事例No.	3065
公表年度	R6
団体の属性	一般市
団体名	千葉県君津市

事例区分	DX

タグ	・AI ・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	土木・インフラ

事例内容・タイトル

業務の概況と課題（インフラ管理（道路））

出典

持続可能な地方行財政のあり方に関する研究会（第4回）①

業務の概況と課題（インフラ管理（道路））

③－２ 損傷箇所の確認(トンネル・橋梁等)

○ トンネル、橋梁等については、5年に1回の法定点検を行うこととされており、必要な知識と技能が求められることから、多くの団体では、事業者に委託して実施している。
○ 近接目視を基本としつつ、ドローン等を活用した点検も行われているが、第三者被害の恐れがある箇所では打音検査等も併せて行う必要がある。

【業務の概況】 ・受託事業者が、近接目視・触診・打音等により橋梁の法定点検を実施。
・管内にある橋梁を5年間で全て点検（一巡）する形で、点検業務自体は毎年実施。

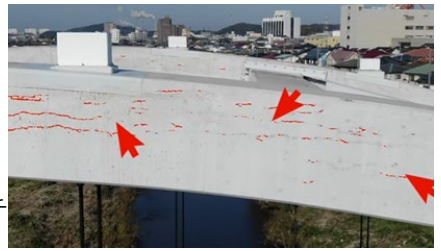
【執行上の課題】 ・橋梁の点検は非常に専門性が高いことから、技術職員がいない小規模団体においては、事業者が実施した業務が適正になされたかどうか等について評価・判断することが難しい。（町村）

【課題解決に向けた取組】

ドローンの活用（千葉県君津市）

・ 民間企業、高専と協力し、ドローンを活用した橋梁点検の実証実験を実施。
・ 職員自らがドローンを操縦・撮影し、撮影した映像からAIを活用し、コンクリートのひび割れ等の損傷の検知及び定量的な評価による診断補助を実施。





（出典）君津市HP及び君津市公式YouTubeチャンネル

＜取組にあたっての課題等＞

・ 橋梁の点検については、非常に専門性が高いことから、技術職員がいない小規模団体においては、事業者が実施した業務の適正性等について評価・判断することが難しい。（町村）
・ 委託している業務についてドローン等を活用しても、地方公共団体の職員の事務の削減に資するものではない。（県）
・ 桁下を道路・鉄道と交差する場合など、第三者被害を予防する必要がある箇所については、打音検査も行う必要がある。